

平成30年度「障害学生支援専門テーマ別セミナー」【発達障害就労支援】

分科会2「発達障害者の安定的な雇用を考える」

平成30年12月5日(水)

CIVI研修センター日本橋5階

インターンシップ等における大学 と企業の連携による実践と課題

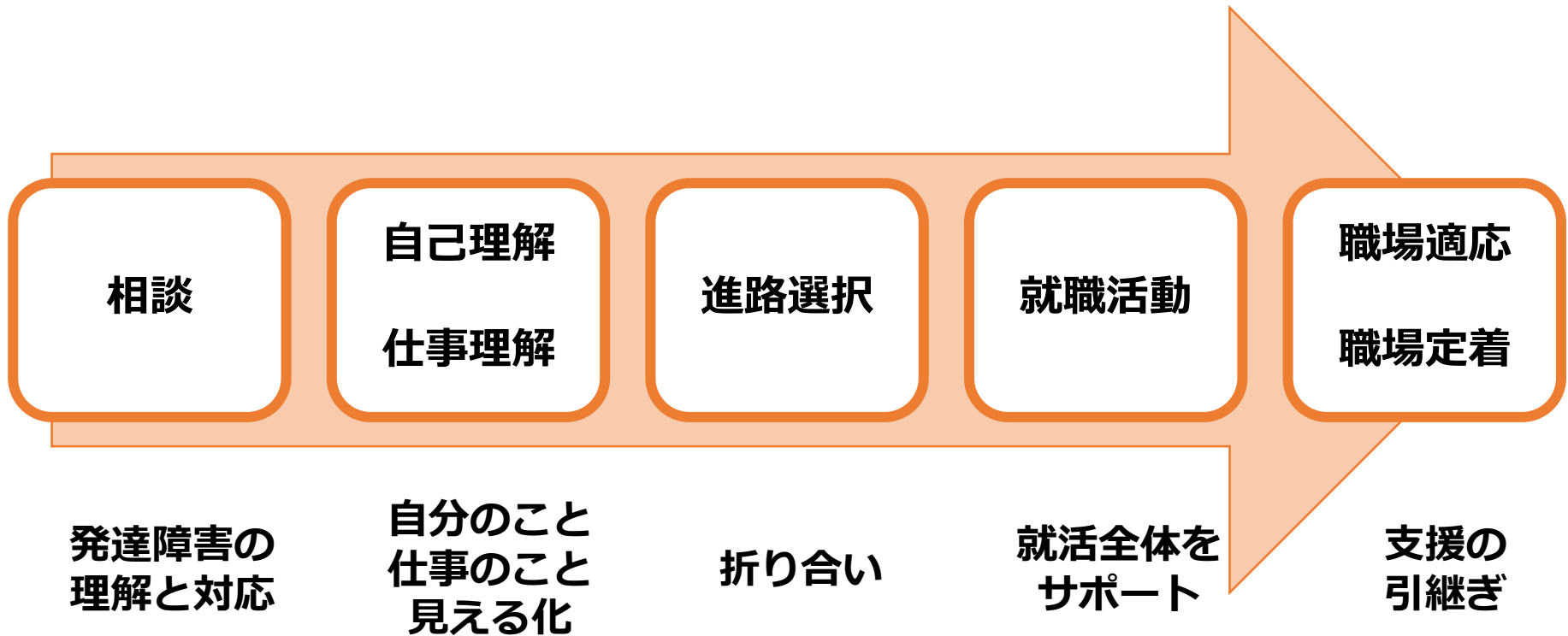
明星大学ユニバーサルデザインセンター

工藤陽介

本日の流れ

- 事例から見えた就労支援のポイント
- 自分のことの見える化
- 折り合うための連携

発達障害学生への就労支援



グレー
ゾーン

学内支援
部署

保護者

就労支援
機関

企業

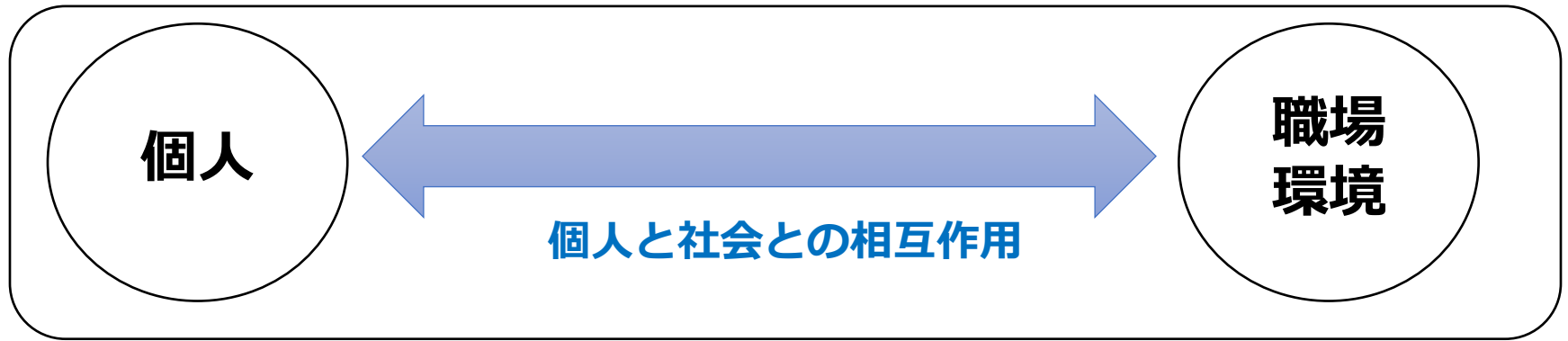
企業から 受容していると思われる状態とは？

- ・「僕はASDです。コミュニケーションが苦手です。」
「私はADHDです。遅刻や忘れ物が多いです。」

受容 ≠ 診断名がつくこと、障害者手帳を取得すること

- ・ 何のために診断や障害者手帳を取得するのか
- ・ なぜ今まで診断や障害者手帳が必要なかったのか
- ・ 診断や障害者手帳を利用するメリットは？
⇒ 本人と対話を通じて本当に必要なのかどうかを吟味。

何のために自分を理解するか



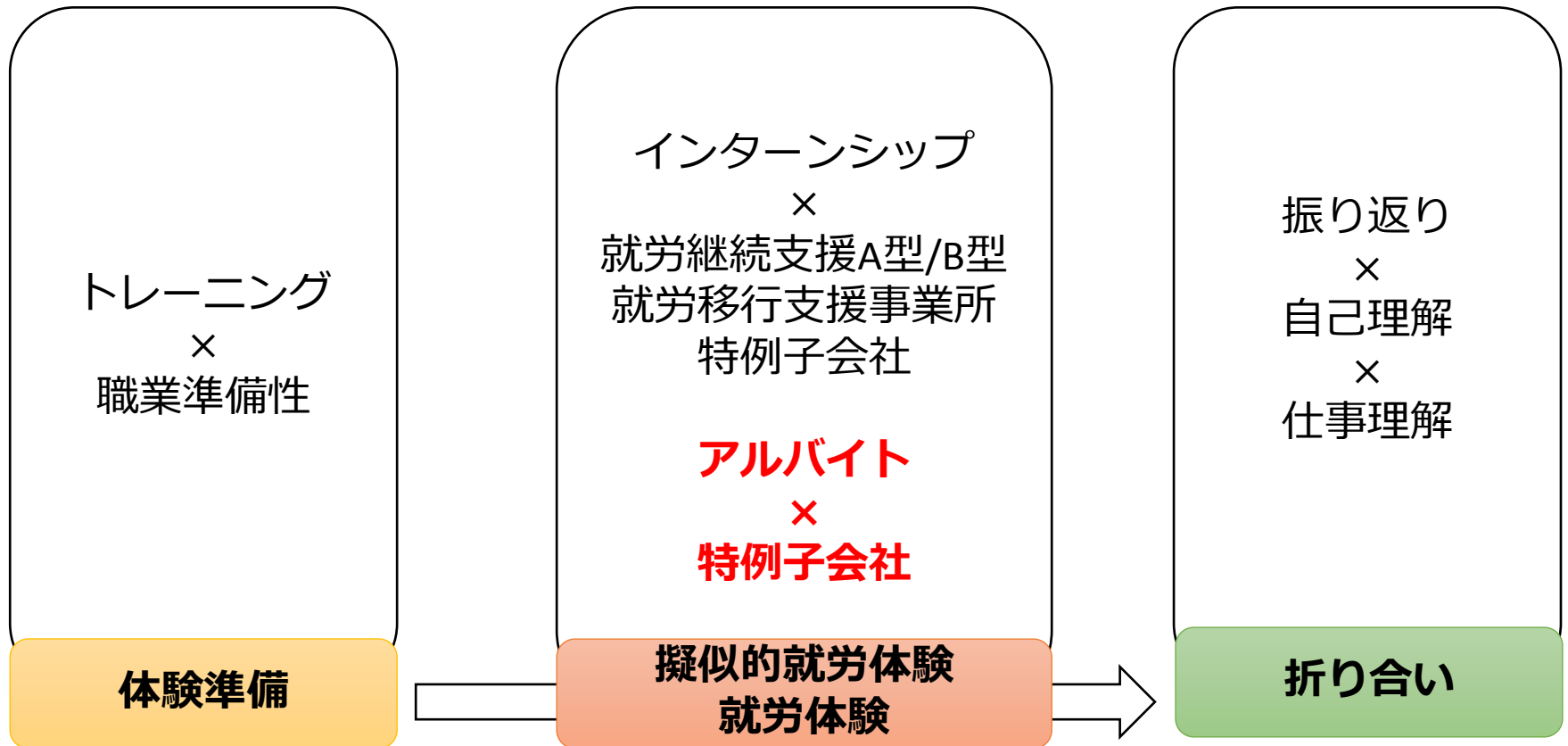
- ①自分のことを理解し、適性に応じた進路を選択するため
- ②納得して自分の進路を選択するため
- ③配慮が必要だった場合に必要な配慮を得るため



自分の得意なこと、苦手なこと、努力できること、配慮内容を相手に伝える必要がある

STARTプログラム

自分で進路を決定するための支援を行うことが目的



体験(就労体験)を基に自己/仕事理解を通じて支援を行う

発達障害学生への就労支援

体験が見える化
自己/他者評価比較

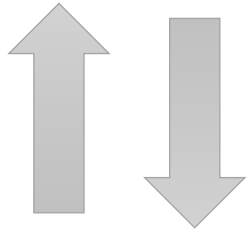
自己評価×他者評価
自己/仕事理解支援

本人の折り合いを
支える

進路選択支援

自分のことの見える化

体験
(就労体験)



大学で整理

- ・ 大学生活、ゼミ、部活、留学
- ・ 就職活動、インターンシップ、アルバイト

など

うまくいって
いること

課題点



自己評価

他者評価

就労体験

インターンシップ

学内

図書館

食堂

売店

学外

A型
B型

就労
移行

特例

障害
者枠

一般

アルバイト

学内

図書館

食堂

売店

学外

特例

一般

例 インターンシップの見える化

インターンシップ A社

他者評価 < 自己評価

- ・なぜ評価の差異が出たのか話し合い
- ・本人としては今いちピンと来ていない
- ・今度は評価の理由を入れてもらうことに

インターンシップ B社

他者評価 < 自己評価

- ・ **個別指示の強さ、作業能力の高さ**
 - ・ **指示理解の弱さ、協調性の低さ**
 - ・ 指示が長いとわからなくなる
 - ・ グループでやるときにどんな役割を取るべきかわからない
- 【対策】
- ・ **指示があったときにはメモを取るようになる**
 - ・ **役割については自分から聞いてみる**



上記を1つのノートに記録していく。

例 就職活動の見える化 (就活記録ノートを活用)

	A社	
	自分	職員
結果	書類選考で落ちた	
できたこと	期日までの提出 自己PRや志望動機が書けた	学歴、職歴、資格などの記入
理由	自己PRの書き方の例を参考に した	自分で書いた後に人に確認を取ったこと
うまくいかなかったこと	自己PRや志望動機をまとめる ことに時間がかかったこと	「学生時代に頑張ったこと」と志望動機 がリンクしていない
理由	自分の考えを中々文章にでき なかった	先方が何を聞きたいのか想像する ことが難しい
対策	準備するまでの時間を十分と る	企業ごとにどのように書いたら良いの か毎回キャリアセンターでチェック

例 求められる力の見える化

	自分のスキル	仕事に必要なスキル
業務上 スキル	アプリ開発 C言語 プログラミング	プログラミング
副次的 スキル	<ul style="list-style-type: none">・決まったことを繰り返し行うのは得意。・コミュニケーションは1対1なら良いが、複数人は難しい。・プレゼンは準備するまでに余裕があると良い。	コミュニケーション <ul style="list-style-type: none">・客先からシステムの要望を確認。・先方のエラーに応じて解決策を考える必要性 プレゼンカ <ul style="list-style-type: none">・先方の要望に合わせてシステムを伝える。

対応方法

■ 本人の可能性を見出す

- 「できない」ことを突きつけるのではなく、
「どうしたらうまくいくか」を一緒に考える
⇒自己肯定感、支援者への信頼向上⇒専門機関へ紹介する土台作り

■ 「守られた環境での失敗」体験

- 大学内で役割分担を行い、失敗から自分のことを整理する
- 「成功の確認と失敗の分析」を繰り返す

■ 「サポートを受けることでうまくいく」体験

- 人の助けを得る≠自分ではできない人だ
- 障害者枠で働く⇒サポートを得た就職
- 相談を通じた信頼関係/達成感⇒意欲

発達障害学生への就労支援

体験が見える化
自己/他者評価比較

自己評価×他者評価
自己/仕事理解支援

本人の折り合いを
支える

進路選択支援

学内連携

■ 「気になる」を言語化する：部署内連携

- 「心配だな」「大丈夫かな」という違和感や気になる感覚
- ⇒ 部署内で共有し、気になる学生の共有

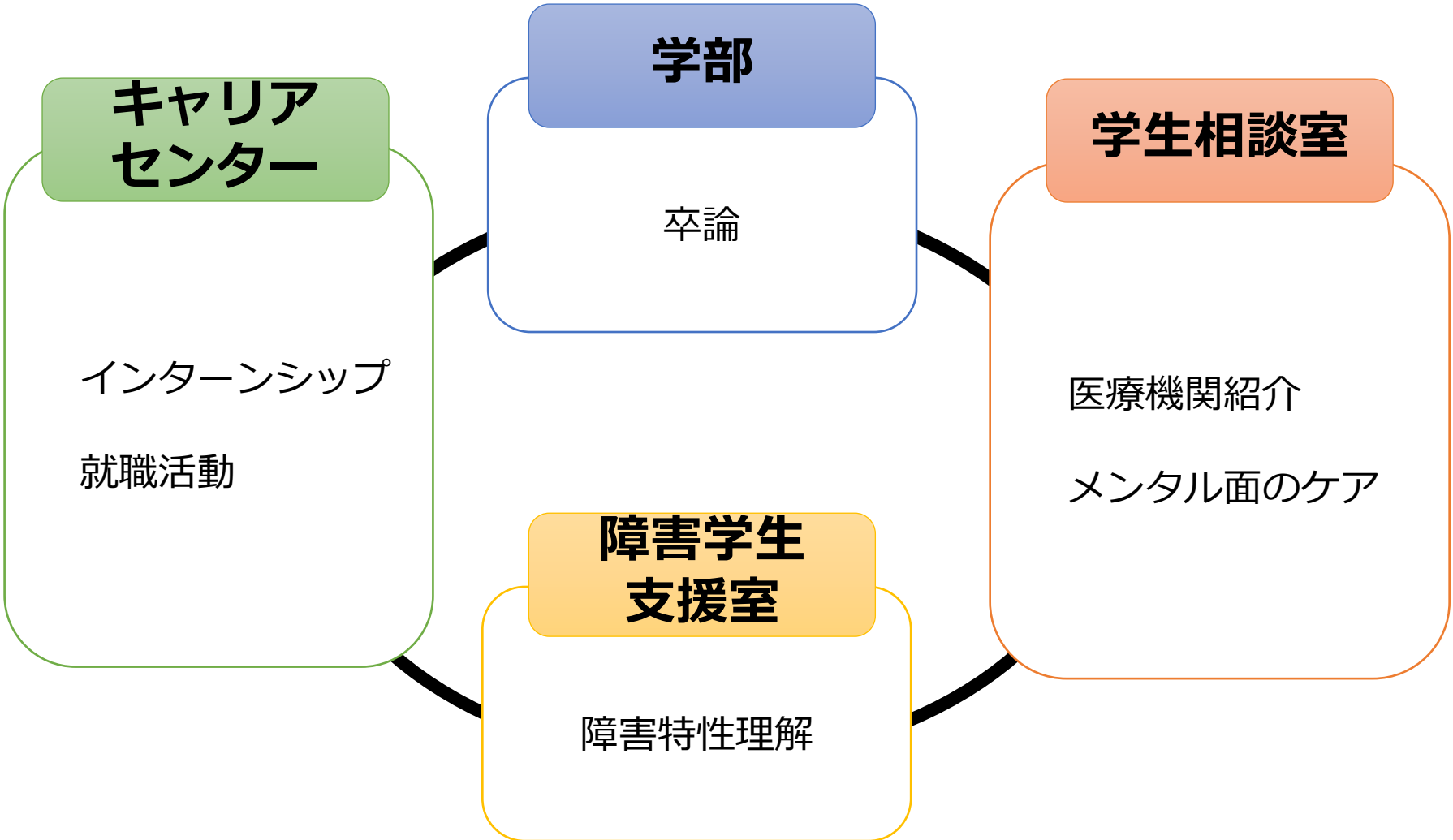
■ 相談できる体制：部署間連携

- 部署内で対応が難しい場合には関連部署へ助言を求める
- ⇒ 学生相談室、学校医、保健センター職員、障害学生支援室など
- ⇒ かかわりがある人を集めて臨時的なケース会議

■ 役割分担の連携：定期的な情報共有

- キャリアセンター、学生相談室、学部など恒常的なケース会議
- ⇒ 個別の学生への対応の検討
- ⇒ 全学的な対応方法検討

役割分担



就労支援機関との連携

■ 就活講座の実施

- 「障害者枠」講座
- 「ユニバーサルデザイン」就活講座

■ 大学のみで対応が難しい場合の対応方法検討

- 大学へ来ていただき本人や保護者を含めて面談
- 本人に応じた求職活動支援
- インターンシップ、企業見学などの情報提供

■ 卒業後の引継ぎ

- 障害者枠 : 定着支援へ向けた情報の引継ぎ
- 一般枠 : 本人/保護者へお守りとしての支援情報提供
- 就労支援機関 : 支援情報の引継ぎ

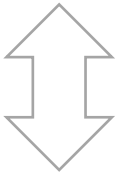
就労支援機関

コーディネート

障害者就業・生活支援センター

障害者就労支援センター

障害者職業センター



評価



就労移行支援事業所

職業能力開発校

国立障害者リハビリテーションセンター

就労訓練



ハローワーク

求職活動



就職

就労継続支援A型
就労継続支援B型

福祉的就労

自己決定を支えるために

■ 多様な働き方を理解する

- 「働く」ことの全体像を理解する
- 現在地を理解する
- 知識⇒見学⇒体験の順で理解が進む

■ 選択肢のメリット/デメリットを理解する

- 本人が折り合いをつける過程を支える
- 支援者から見た見通しを伝える

■ 自分に合った選択を支える

- やりたいこと < できること
- 就職する < 長く働くことができる
- 本人が納得する選択を最優先

保護者への理解

■ 信頼関係が何よりも重要

-数回の面接では関係は深まらない

■ 「なぜ」から「だから」への理解の変化

-保護者の気持ちへ共感する

■ 保護者を「支える」という視点

-保護者も本人の将来には困っている

-「認める-認めたくない」気持ちに寄り添う

まとめ

- 自己理解を深めることが受容の第一歩
 - 診断や障害者手帳は手段であり目的ではない
- 自己理解を深めるための見える化
 - 自己評価と他者評価を通じた自己理解
- 本人の折り合いを支えるための進路選択支援
 - 学内でケース検討できるような関係づくり
 - 学外機関も含めた地域で検討する仕組み